

105-135

問題文

化学物質の毒性評価とその試験法に関する記述のうち、正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 食品添加物や農薬などの安全性を調べるための毒性試験には、good laboratory practice (GLP)に基づいた試験法ガイドラインが設けられている。
2. 無毒性量は、一般毒性試験の単回投与毒性試験により求められる。
3. 発がん性試験では、遺伝子突然変異や染色体異常、DNA損傷を指標とする複数の試験法を組み合わせ、発がん性の評価を行う。
4. 農薬の毒性評価には、急性毒性試験は必要ない。
5. 催奇形性には動物種差が存在するため、催奇形性試験はラットなどのげっ歯類及び非げっ歯類で行われる。

解答

1, 5

解説

選択肢 1 は妥当な記述です。

選択肢 2 ですが
反復投与毒性試験です。単回投与毒性試験ではありません。 ()

選択肢 3 ですが
発がん性試験とは、マウスなどに被験物質を長期的に暴露させて、腫瘍が発生するかをみる試験です。「腫瘍発生するかどうか」で評価します。複数の試験法を組み合わせるというのは妥当ではないと考えられます。
よって、選択肢 3 は誤りです。

選択肢 4 ですが
例えばへりによる農薬の散布場所に、誤って人がいた場合や、田んぼで農薬散布時に誤って汚染された場合などを考えれば、急性毒性試験も「必要」と判断できるのではないのでしょうか。選択肢 4 は誤りです。

選択肢 5 は妥当な記述です。 ()

以上より、正解は 1,5 です。